

中国のスギ花粉症：日中共同研究の10年間のあゆみ

程 雷

南京医科大学国際鼻アレルギーセンター
南京医科大学第一附属医院耳鼻咽喉科
日本花粉学会外国人特別会員（三木基金）

1995年から始まった日中の共同研究プロジェクトである「中国におけるスギ花粉症の実態調査とその対策」は、中国のアレルギー・花粉症研究分野での最大規模と形容できる。これまでいくつかの研究成績をあげている。

スギ花粉症 (Japanese cedar pollinosis) は日本独特の花粉症だとされてきたが、日本スギ (*C. japonica*) と同一の性質をもつスギ (柳杉, *C. fortunei*) の植生が中国でもみられ、花粉症の原因となっている。1998年春に、我々によりスギ花粉症の第1症例を南京市で発見し、日本以外の国における初めてのスギ花粉症を報告していた。そして、我々は中国産と日本産のスギ花粉を走査電顕で観察し、花粉形態学的な相違はほとんど認められなかった。さらに、日中両国で採集したスギ自然林の針葉を遺伝学的解析した結果、両品種を別種に分類する必要性が示されなかった。

2001年に行われた我々のチベット・ラサ市小中学生を対象とするアレルギー・花粉症疫学調査において、スギ花粉に対し陽性反応を呈する被験者が存在した。スギ花粉は、標高3,640メートルの調査地には存在しないものと想像されていたが、この事実により現地にはスギ花粉もしくはそれと同一の抗原性を有する花粉の存在が疑われた。そして2004年の我々の調査から、チベットには樹齢2500年と伝えられるヒノキ科巨木の植生していることが確認できた。この植生地はラサ市より約400キロ東側の林芝地区に存在したが、これ以外の地域にもヒノキ科植生地の存在は推測できる。スギ花粉と共通抗原性を有するヒノキ科花粉がラサ市まで飛散しており、ラサ市のスギ花粉陽性例がその影響を受けている可能性も否定できない。

一方、我々は中国産スギすなわち柳杉の花粉エキスを反応し花粉症の典型的な症状を発生する日本人症例の存在することを、2004年に世界で初めて明らかにした。スギ花粉症の人は中国産スギ花粉にも反応して発作を引き起こすことを証明し得たわけで、これはつまり *C. japonica* と *C. fortunei* が同一属同一種であったことの再確認と言える。

文献的には、中国においても自生するスギのほかに、植栽されたスギの存在が明記されている。これら人工的に植栽されたスギの成長に伴い中国でもスギ花粉の飛散量が増加し日本と同様にスギ花粉症が公衆衛生問題になるであろうと考えられ、今後の定期的な疫学調査を企画している。